



馬の学校

馬の学校通信

2006. 12 vol.24



発行 馬の学校

事務局 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町 3-27-26 TEL/FAX : 06-6330-0406

E-mail : mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ : http://www.horseschool.org



秋のプログラム 活動報告



ファミリープログラム (10/21、11/5)



「ピースいい子だね」



「お母さん、見て～」



記念撮影です



「たくさん毛が抜けるなあ」



ミントに乗りました



力をあわせて

馬とのふれあいプログラム (10/14、11/19・23)



蹄の裏はどうなっているかな? お尻にタッチ!



「こっちだよ～」



「ふわふわしてるね」



「気持ちいいなあ」



早く食べた～い!



この手触りがたまらない・・・



初乗馬!



わらの取り込み中



2006年 活動報告



- 3月12日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 3月25～28日 ウマキャンプ (清里)
- 4月15日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 4月22日 ファミリープログラム (和知)
- 5月3～5日 「馬と友達になろう」 (高知)
- 5月14日 馬とのふれあいプログラム (枚方)
- 7月1日 ファミリープログラム (和知)
- 7月23日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 8月1～4日 ウマキャンプ (清里)
- 8月8日 大阪YMCA 国際専門学校
乗馬体験プログラム (和知)
- 8月20～25日 帝京科学大学 実習 (清里)
- 10月14日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 10月21日 ファミリープログラム (和知)
- 11月5日 ファミリープログラム (和知)
- 11月19日 馬とのふれあいプログラム (服部)
- 11月23日 馬とのふれあいプログラム (枚方)

保護者へのアンケートから



ふれあいプログラム

子どもにとってよかったことは・・・

- ・開始準備から親切に対応してもらいながら、ゆっくりと気持ちの準備もできていったこと。乗れた自信や馬小屋の仕事も少し経験できたこと。
- ・スタッフの方々が優しく、初めての所でも親と離れて平気だったこと。
- ・馬とふれあえる時間が増えてきたこと。
- ・積極的にプログラムに取り組もうとできたこと。
- ・馬に乗って楽しそうにしていたこと。





ウマコンテスト 結果発表！



作品はホームページで見ることができます

優秀賞	長野県	岡本 悠さん (11歳)
準優秀賞	和歌山県	藤田 安耶 さん (11歳)
パカパカ賞	高知県	久保田 鈴さん (12歳)
ユーモア賞	兵庫県	大原 麻代さん (12歳)



岡本 悠さん「馬の気持ち」

その他の作品はHPでご覧下さい。



おすすめの本

『鞍馬 ばんば』ばんえい競馬写真集

写真 近江隆俊 北海道新聞社編

1トンもある大きな馬が鉄そりを引き、馬力を競うばんえい競馬。迫力のあるレースや、働く人たちの様子、馬との交流など、多彩な写真からばんえい競馬の魅力が伝わってきます。ちなみに、ばんえい競馬に使われる馬は、ペルシュロン、ブルトンなど外国の大型農耕馬を掛け合わせたものです。(道産子とは違います)



ドイツ「馬のワールドカップ」

ドイツ・アーヘンで8月20日～9月3日にかけて行われていた馬に関する競技のワールドカップ (FEI World Equestrian Games 2006) を見学してきました。障害飛越・馬場馬術・総合馬術だけでなく、馬車・レイニング・軽乗・エンデュランスを含めた7種目が行われます。一番見たかったのは軽乗だったのですが、日程の関係で障害飛越のみとなりました。でもちょうど決勝の日ですごい盛り上がりでした。また会場内には食べ物だけでなく馬具や馬関係の出店がたくさんあり、馬グッズ探しもできて楽しかったです。

競技のレベルの高さもさることながら、私が興味深かったのは「なぜ馬術大会にこれだけの人が集まるのか??」ということ。老若男女、さまざまな年齢の人たちが競技を楽しんで見ているのです。まるで野球やサッカーの観戦に行くかのように、馬術の競技会を見に行っている感じがしました。



障害飛越競技の決勝。もちろん会場は立ち見も出るほどの観客がつかけていました。



隣の会場で行われていた馬車の競技です。



これは競技用の帽子屋さん。大会マスコットのカーリー看板がとてもかわいい！



くん。ちょっと怖い？



編集後記

この1年も馬の学校の活動を通して、多くの人たちに出会えたことをとても嬉しく思っています。

ボランティアでお手伝いをしていてくれる方も含め、馬がいなければ会うことがなかっただろうなあ・・・と思い、人と人をつなげるということが、馬の持つ大きな魅力の一つだと改めて感じました。

ドイツで念願の「軽乗案」を買ってきました。ポニー用として売っていたシンプルなものですが、中ぐらいの馬なら十分使えそうです。しかも値段が驚きの安さ・・・なんと1万5千円でした。それだけ需要があるということなのでしょう。また本屋で売っていた子ども向けの乗馬クラブガイドには、600箇所以上の乗馬クラブが載っていました。あまりの環境の違いにため息が出そうですが、日本に合った形で子どもたちと馬とのふれあいの場がもっと広がってほしいと願います。(峯崎 友香理)

